



東中だより

令和7年12月25日(木) 余市町立東中学校 発

校訓「進取」「利他」

学校教育目標

- 自律・・・自ら考え 判断し 行動する力
- 尊重・・・多様性を受け入れ 対話して解決する力
- 創造・・・豊かな発想で 新たな価値を生み出す力

静かな成長 確かな歩み

教頭 青柳 由美

今週月曜日は「冬至」でした。「冬至」は、一年で最も昼の時間が短い日ですが、この日を境に、日照時間は少しずつ長くなっていく日でもあります。昔の人々は、この日を「ここから再び光が増えていく節目」と捉え、厳しい冬の中にも希望を見いだしてきました。

先日、テレビで冬至について取り上げられているのを見て、「冬至の七草」と呼ばれる食べ物があることを知りました。かぼちゃ（なんきん）をはじめ、にんじん、だいこん、れんこん、きんかん、ぎんなん、うどん（うんどん）など、名前に「ん」が2つつく食材で、運があがると考えられていたと知り、私自身とても興味を覚え、新しい知識を得たことにワクワクしました。日常の中にある何気ない風習にも、先人の知恵や思いが息づいていることを、改めて感じたひとときでした。

このように、「知るきっかけ」は案外、身近なところにあります。テレビで見たこと、誰かから聞いた話、ふと疑問に思ったこと。そうした小さな関心が、「もっと知りたい」「調べてみたい」という学びにつながっていきます。冬休みという時間にゆとりがある今だからこそ、ぜひ子どもたちにも、学校の学習だけでなく、季節の行事や身の回りの出来事に目を向け、自分なりの興味関心をもってほしいと願っています。

さて、昨日のウィンターフェスティバル

では、「東中かるた」「スリッパ卓球」「ドッジボール」などの種目を通して、生徒たちの生き生きとした姿を随所に見ることができました。私自身も会場を回りながらその様子を見ていましたが、どの場面でも笑顔や声援があふれ、生徒一人一人が仲間とともに行事に向き合っていることを強く感じました。

行事を終えた後、戻ってきた教職員からも「ウィンターフェスティバル、とてもよかったね」という声が自然と上がり、学校全体で達成感を共有できた行事であったことを実感しました。生徒会長の古川さんが開会のあいさつで話してくれた「笑顔で楽しむこと」「周りへの思いやりを忘れないこと」「全力で頑張る」という言葉どおり、礼儀やマナー、ルールを守りとても温かく素敵な行事になりました。

生徒たちの成長は、テストの結果や目に見える成果だけで測れるものではありません。毎日学校に通い続けたこと、友達や周囲の人を気にかけることができたこと。そうした一つ一つの姿も、ちょうど冬至の七草のように、心と体を静かに支える大切な力となっています。今はまだ小さな芽であっても、生徒一人一人の中には、次の一年へとつながる確かな力が育っています。学校は、保護者や地域の皆様と力を合わせながら、その芽を大切に育てていきたいと考えています。今後とも、変わらぬご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

※東中カルタ読み札より
東中生
成長していく
心にひ